

令和 2 年度
事業報告書

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

社会福祉法人 空知の風

目次

法人事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・	3 ページ
たのしいどう事業報告・・・・・・・・・・	14 ページ
きっちんどう事業報告・・・・・・・・・・	22 ページ
あかるいどう事業報告・・・・・・・・・・	29 ページ
わくわくどう事業報告・・・・・・・・・・	40 ページ
歩～夢 事業報告・・・・・・・・・・	46 ページ
楽らく事業報告・・・・・・・・・・	53 ページ

令和2年度 法人事業報告

◇はじめに

～令和2年度事業の総括～

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症を予防する観点から、当初の計画を遂行することが困難な1年となりました。予防方法や感染者への対処方法、濃厚接触者の取扱いなどあらゆることが活動に影響し、未知の感染症によって生活が一変してしまいました。

コロナウイルスについて全く得体の知れなかった春先は人の出入りや活動を極力抑えて、マスク着用や手洗いや消毒を徹底し、高騰して手に入りにくかった衛生用品も工夫しながら少しずつ確保していきました。市中の感染が落ち着いた夏場は屋外での活動を少しずつ実施し、第2波、第3波の秋口以降は再び警戒レベルを上げて支援を実施しました。幸い当法人の利用者や職員で感染や濃厚接触となった方はおりませんでした。道内の複数の福祉事業所では感染が発生し、終息までに相当の困難な状況があったとのことで、今後も引き続き感染予防と感染者が出た場合を想定した訓練が必要になると思われます。

令和2年度の重点目標として掲げていた事項としては、

1. 職員の働き方への対応

①働き方改革に基づく労働法への対応

○パートタイム・有期雇用労働法の改正に伴う同一労働同一賃金（均衡待遇、均等待遇）に対応した諸規定の改正

②福祉・介護人財の確保定着への対応

○福祉・介護職員処遇改善加算の変更（加算Ⅲ→加算Ⅱへ）

2. 職員の確保と人財育成について

○内外の研修実施と仲間づくりを通じた職員育成

○新任教育及び中堅職員を対象とした専門教育の実施

○人事異動を通じた人財育成と働きやすい環境の整備

3. 中・長期計画による事業再編計画の策定

○各事業における具体的な計画の策定

○事業再編に向けて必要な事項等の実施

4. 地域公益事業の実施

- 地域の活力となる事業の推進
 - ・こども食堂や体験事業の実施
 - ・地域交流祭の実施
 - ・他の社会福祉法人や企業・団体との連携など

5. 新規利用者の確保と利用率の向上

- 各事業所における魅力ある活動への取り組み
- 新規利用者の獲得のため、特別支援学校や関係機関との連携を密にし、当法人の取り組みや実績を広く発信する。
- 利用者の意欲や楽しみにつながる活動や支援の提供
- 利用者が健康を維持して利用を継続できる支援の提供
- 職員の意識向上と実践力を高める

以上の5つを掲げておりました。年間の総括としましては、

1つ目の**職員の働き方への対応**については令和3年4月からの同一労働同一賃金に対応するために給与規程を点検し、顧問社労士等と協議を行ない規程の変更を実施いたしました。また、福祉人財の確保定着に向けた取組として処遇改善加算をⅢからⅡへと引き上げています。

2つ目の**職員の確保と人財育成**については、感染予防の観点から研修会等がほとんどできず、リモート形式の研修会に一部参加する程度にとどまっております。一方ではオンラインの会議については早い時期から導入することができ、法人内それぞれの事業所と課題や情報を共有することができました。

3つ目の**中・長期計画による事業再編計画の策定**については老朽化しているグループホーム住居の更新や、今後の重度高齢化に対応しうる設備のあるバリアフリー住居の必要性、在宅から日中活動へ参加している多くの方たちの将来に向けた住居の整備が必要ということと、コロナ禍で大きな打撃となった就労事業の見直しについて必要性を役職員で共有しております。

4つ目の**地域公益事業の実施**については、感染拡大防止の観点から「子ども食堂放課後れすとらん」と「第9回地域交流祭」を中止いたしました。一方、冬季の岩見沢は豪雪により市民生活に大きな影響を及ぼしましたが、当法人の重機及び人員で近隣町内の除雪などにも協力し、大きな事故やけがなく対応しております。

5つ目の**新規利用者の確保と利用率の向上**については新規利用の方は大きく増えることはありませんでしたが、利用率はコロナ禍にあっても前年を上回る利用数となりました。令和3年度も引き続き、感染症予防対策を徹底し、利用者さんが安心して利用できるように取り組むとともに、コロナ禍にあっても利用者の工賃や生活が豊かになる様な取り組みを模索してまいります。

■役員会運営

令和2年度は理事会を3回開催しました。新型コロナウイルスの感染予防の観点から開催の是非や会場、時間短縮などについて十分協議し、安全に配慮して開催しております。

開催された理事会では、新型コロナウイルス感染症の法人としての対応についての協議が中心となりました。利用者や職員の感染を防ぎながら安心して利用継続ができるように、法人行事の中止を判断し、体調不良の時の通所判断や、グループホーム生活者の外出や帰省についての取扱い等について確認しました。

また、同一労働同一賃金への対応については、顧問の社労士と現行の就業規則等を検討し一部改訂を行っております。

かねてより課題となっておりましたグループホームの老朽問題については、老朽した住居の一つを当法人の支援エリア内に手ごろな物件を見つけたため、令和3年度より賃貸契約をして移転するように協議し議決しています。

コロナ禍の影響もあり、当法人で行なっている就労事業が大きく減収してしまい、今まで行なっていた事業についての見直しも必要ではないかとの協議も行なっています。今までは食品製造や飲食を中心としており、イベントなど人が集まる場所への出店や受注が売り上げのメインとなっていました。今後はそれ以外でも安定して売り上げがあげられる事業を模索していくことを確認いたしました。

その他の法人運営に係る理事会運営についても予算執行や各議案について活発かつ慎重な審議を行ない、事業運営を滞りなく実施する事が出来ました。なお、入札等の案件は発生しておりません。

評議員会は定時評議員会のみ1回の開催でした。開催については慎重に検討した結果、やむを得ず書面にてご意見をいただき承認をいただきました。事業報告や決算の承認、福祉充実残額の計算等が行なわれました。

監事監査については、四半期毎に会計監査、運営監査を実施し、実務上の改善事項について助言を頂き理事会で報告をしていただいております。実施方法については従来のような担当者が集まり対面で行なう方法を見直し、書面と電話連絡により監査していただく方法に変えております。

法人経営と会計については、社会福祉法人会計に長けた会計士事務所による外部監査も継続しています。法人改革の重点項目である財務規律の強化の面で、社会福祉充実残額の適切な計算と、法人の財産を地域社会に役立てる方策なども検討をしています。

○理事会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況	
			理事	監事
第1回 理事会	令和2年5月28日（金） 15時00分～17時00分 社会福祉法人空知の風 春いろカフェ	・ 令和1年度事業報告の承認 ・ 令和1年度決算の承認 ・ 令和1年度福祉充実残額の承認 ・ 定時評議員会日程及び議案について	6	2
第2回 理事会	令和2年12月15日（火） 15時00分～16時30分 社会福祉法人空知の風 春いろカフェ	・ 補正予算の承認 ・ たのしいどうビジネス電話機リースについて ・ 法人の今後の整備計画について	5	2
第3回 理事会	令和3年3月18日（木） 15時00分～17時00分 社会福祉法人空知の風 春いろカフェ	・ 補正予算の承認 ・ 就業及び給与に関わる規程の変更 ・ 老朽GHの移転について ・ 令和3年度役員改選の手順について確認	6	2

○評議員会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況		
			評議員	理事	監事
定時	令和2年6月20日 新型コロナウイルス 感染拡大防止・予防のため 書面による開催	・ 令和1年度事業報告の報告 ・ 令和2年度事業計画の報告 ・ 令和1年度決算の承認 ・ 令和1年度福祉充実残額の計算の承認	7		

■監査等の状況について

○監事監査の実施状況について

	日時	対象期間	担当監事	
			業務	会計
令和1年度第4期	令和2年5月21日 (書類による監査)	令和2年1月1日から令和2年3月31日	堀 監事	小嶋 監事
令和1年度決算	令和2年5月21日 (書類による監査)	平成31年4月1日から令和2年3月31日	堀 監事	小嶋 監事
令和2年度第1期	令和2年7月30日 (書類による監査)	令和2年4月1日から令和2年6月30日	堀 監事	小嶋 監事
令和2年度第2期	令和2年11月11日 (書類による監査)	令和2年7月1日から令和2年9月30日	堀 監事	小嶋 監事
令和2年度第3期	令和3年2月16日・18日 (書類による監査)	令和2年10月1日から令和2年12月31日	堀 監事	小嶋 監事

○外部監査の実施状況について (よつば会計事務所)

	日時	対象期間	内容
第1回	令和2年4月21日(火) 10時00分～18時00分	令和2年1月1日から令和2年3月31日	令和1年度決算書 および明細書確認
第2回	令和2年5月19日(土) 10時00分～16時30分	平成31年4月1日から令和2年3月31日	令和1年度決算書 および明細書確認
第3回	令和2年7月28日(火) 10時00分～17時00分	令和2年4月1日から令和2年6月30日	各科目残高確認 収支状況の確認
第4回	令和2年10月29日(木) 10時00分～17時30分	令和2年7月1日から令和2年9月30日	各科目残高確認 収支状況の確認
第5回	令和3年1月28日(木) 10時00分～18時00分	令和2年10月1日から令和2年12月31日	各科目残高確認 収支状況の確認

○苦情解決委員会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況		
			管 理 者	受 付 担 当 者	第 3 者 委 員
令和2年度 総括	書面による概要説明を郵送し、各委員より書面で意見を提出	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度各事業所の苦情受付状況報告(書面) 第三者委員からの意見(書面) 令和3年度苦情解決体制の確認 権利擁護、虐待防止に向けて 			

■施設整備等について

車輛の整備としては、除雪用の小型重機と送迎や製品の配達、通院などに使用する利用者支援用の車両を購入しました。

機器整備としては、「きっちんどう」で使用していた店舗用のエアコンが経年による劣化があったため、機械の更新をリースで行なっています。

また、「わくわくどう」のそらかぜ食堂休止中の代替作業としてTシャツなどへのプリント事業をするための作業機械一式を導入しています。

修繕の整備としては「あかるいどう」の雪害により壊れた屋根の修繕と「歩～夢：秋いろ庄」の屋根の劣化による雨漏りを解消するため屋根の修繕を行ないました。

◇車両の入れ替え整備

①たのしいどう 除雪用小型タイヤショベル

購入車種：コマツ建機 ミニタイヤショベル WA30

残価設定リース満期による購入

購入価格：1,100,000円



②歩～夢 通院・巡回用車両

購入車種：トヨタシエンタ グレー

7人乗り 4WD

年式：平成21年

購入価格：630,000円



◇機器整備

①「きっちんどう」店舗エアコンの整備（リース契約）

リース物件：三菱暖房エアコン MSZ-KXV4019

リース月額：6,930円/月額（4年リース）

リース総額：332,640円（税込み）



②「わくわくどう」プリント作業機械一式の整備（リース契約）

リース物件：OKI カラープリンター COREFIDO C844dnw(カラープリンター)

手動プレス機

ブラザー スキャンカット SDX1200

リース月額： 9, 240円/月額（5年リース）

リース総額：554, 400円



◇施設の修繕

①「あかるいどう」雪害による屋根破損の修繕

前年度の雪害によりオーバーフローした屋根及び内装について保険の適用となっていました。コロナウイルスの影響で外部業者の出入りを制限していたこともあり工事時期が今年度にずれ込んでおります。

工事価格 618, 000円(税込み)

②「歩～夢：秋いろいろ荘」屋根改修工事

経年劣化の屋根の痛みにより雨漏りをしていた秋いろいろ荘の修繕を行なっています。

工事価格 1, 370, 000円(税込み)

■事故報告の状況について

□利用者さんに係る事故

- | | |
|---------------|--------|
| ①支援時間中の重大な負傷等 | 0件 |
| ②支援中の利用者さんの負傷 | 1件（軽傷） |

□車両による事故件数

- | | |
|---------|-----------------------------|
| ①人身事故 | 1件 |
| ②単独接触事故 | 6件（雪壁への接触、施設・建物への接触等、けが人なし） |

□その他

- | | |
|-----------------|--------|
| ①利用者さんの支援中の労災事故 | 2件（軽傷） |
|-----------------|--------|

■行事の実施状況について

新型コロナウイルスの感染予防により、法人事業所合同の行事は中止いたしました。事業所単位で三密を避けた少人数単位の企画を行なっています。

日 時	行 事 名
令和2年 4月 4日	事業開始式（事業単位）
令和2年 10月～11月	少人数での外出企画
令和2年 12月	利用者忘年会（少人数）事業単位
令和3年 1月	新成人のお祝い（事業単位）



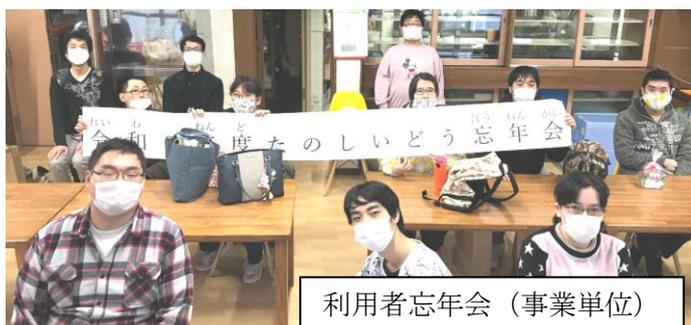
事業開始式



少人数での外出企画



少人数での外出企画



利用者忘年会（事業単位）



成人のお祝い会

■ 渉外活動（令和2年度）

渉外活動	職名	氏名
空知知的しょうがい福祉協会	理事	松田
	代表者	TD 竹治・KD 横田・AD 廣岡 WD 橋・HM 松田
	幹事	中山・成田
・岩見沢市障がい者福祉施策懇話会 ・岩見沢市障がい者サポート協議会	委員	橋
全国社会就労センター協議会 事業振興委員会	委員	横田
北海道社会就労センター協議会 事業振興委員会	委員	横田

■ 苦情解決委員会および虐待防止委員会について

令和2年度の苦情体制

- ・たのしいどう（受付担当者：山本 美加）（第3者委員：小松 大記）
- ・きっちんどう（受付担当者：廣岡 拓）（第3者委員：小嶋 孝之）
- ・あかるいどう（受付担当者：成田 純一）（第3者委員：小島 孝之）
- ・わくわくどう（受付担当者：横塚 健二）（第3者委員：藤田 雅子）
- ・歩～夢（受付担当者：中山 拓哉）（第3者委員：藤田 雅子）
- ・権利擁護委員会 担当：倉増麻貴子

令和2年度の第三者委員も交えた年度の総括会議については、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、集合しての会議を行わずに書面による会議といたしました。年間の苦情受付の状況や虐待防止の取組みなどについて概要を書面で報告し、第3者委員からご意見をいただきまとめています。

令和3年度からは苦情解決委員会と虐待防止委員会に加え身体拘束適正化委員会を付与し、不適切な支援が行なわれていないかチェックする機能を強化していきます。

■利用者現況調べ（令和3年3月31日現在）

① 年齢構成（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	合計人数
男性	4	26	16	9	2	2	0	59
女性	4	13	8	9	1	0	0	35
総数	8	39	24	18	3	2	0	94

平均年齢：男性 32.5歳、女性 32.1歳、全体 32.3歳

②障害支援区分

	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
男性	17	0	6	17	14	5	0	3.43
女性	5	0	2	9	11	5	3	3.93
総数	22	0	8	26	25	10	3	3.64

■工賃の支払い状況（単位：円）

①工賃支給比率

事業名	資金収入額(円)	工賃総額(円)	支給人数(人)	支払比率
たのしいどう	17,524,051	8,445,500	33人	48.2%
きっちんどう	14,968,432	6,665,900	23人	44.5%
あかるいどう	6,978,692	5,195,900	24人	74.5%
わくわくどう	9,472,803	5,045,400	14人	53.3%
全事業合計	48,943,978	25,352,700	94人	51.8%

②利用者工賃額

事業名	工賃総額(円)	支給人数	平均工賃額	うちB型のべ 工賃支給人数	うちB型事業平均
たのしいどう	8,445,500	33人	21,061	208人	26,067
きっちんどう	6,665,900	23人	24,966	211人	27,126
あかるいどう	5,195,900	24人	18,360	137人	23,759
わくわくどう	5,045,400	14人	30,032	168人	30,032
全事業合計	25,352,700	94人	23,605	724人	26,746

令和2年度 たのしいどう 事業報告

1. 令和2年度事業の総括

令和2年度は、高等養護卒業後の新利用者さん1名、新規利用者さん1名の合計2名が、仲間へと加わっています。令和2年度は、コロナウイルス感染症の影響により、生活スタイル、環境、生産活動の面においても、様々な影響と変化があった年となりました。利用者さんの安全を第一に考え、感染症対策への対応、協力等も行なって頂き、利用者さんと職員、ご家族の協力もあり、感染者が出ることもなく、皆の頑張りでも乗り越える事が出来ています。生活スタイルや作業環境での変化の中、慣れるまでに時間を要することも多く、毎日が不安と戸惑いの多い日々となりました。今年度は、降雪の影響により、交通機関の乱れや交通障害、雪害なども多く、11月より、通所率が下がる状況ともなりました。生産活動の収入では、コロナウイルスの影響が大きく、例年企業から請けていた下請けの仕事が無くなる、飲食店の休業や時短営業、学校の休校やリモート授業への切り替えにより、パンやお菓子の受注、販売も多く無くなっています。しめ飾りの製作では、今年度新たに干支のしめ飾りも販売し、目標数を上回る注文を頂き、大きな成果となっています。チームとして皆で作りに上げた事は、一人ずつの自信と達成感にも繋がられたと感じています。ウエスの顧客も少しずつ増え、一人ずつが自分の役割を担い、やり甲斐や楽しみを創出する活動も両立しながら、感染予防を第一に考え、進めてきた一年となりました。

2. 実施事業

- 就労継続支援事業B型 定員25名 現員17名
- 生活介護事業 定員15名 現員16名
- 短期入所事業 定員 2名/日

3. 令和2年度の利用状況

- たのしいどう全体（定員40名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	34	34	34	34	33	33	33	33	33	33	33	33	33	69.5%
開所日数	25	23	26	25	23	24	27	23	24	23	22	26	291	
延利用回数	708	672	716	730	662	673	721	650	636	635	573	711	8,087	

平均実利用数27.8名（小数点第2位以下切り上げ）

4月より、高等養護卒業後新利用者さん1名と新規利用者さん1名が加わっています。また、年度途中で1名の利用者さんが、あかるいどうへ異動しています。現員数が、定員数に満たしていないため、利用率は低くなっています。

■就労継続支援事業B型（定員25名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	58.6%
開所 日数	25	23	26	25	23	24	27	23	24	23	22	26	291	
延利用 回数	376	361	394	372	351	350	383	341	328	332	296	377	4,261	

平均実利用数 14.7名（小数点第2位以下切り上げ）

4月に1名新規利用者さんが、新たに利用開始しています。7月から1名の利用者さんが、生活介護事業へ異動しています。

■生活介護事業（定員15名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	16	16	16	17	16	16	16	16	16	16	16	16	16	87.7%
開所 日数	25	23	26	25	23	24	27	23	24	23	22	26	291	
延利用 回数	332	311	322	358	311	323	338	309	308	303	277	334	3,826	

平均実利用数 13.2名（小数点第2位以下切り上げ）

4月に1名の新規利用者さんが、新たに利用開始しています。7月より、1名の利用者さんが、就労継続B型より生活介護に異動しています。また、8月より1名の利用者さんが、あかるいどうの生活介護へ事業所を異動しています。

■短期入所事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延利用 回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

今年度は短期入所事業の利用はありませんでした。

4. 取組みの概要

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

・パンと菓子の製造販売

～パン工房では、新型コロナウイルス感染症の影響により、外へ販売出来る機会は減りましたが、店舗に来て頂くお客様や受注を受けている取引先を大切に、商品の見直しや新たな提示も随時行なっています。新規として、保育園やスーパーマーケットへの納品も増えています。全国の事業所様との取引も継続的に進め、パンやロー

ルケーキ、焼き菓子の納品、発送を行なっています。季節やイベントに合わせた商品作りも進め、今出来ることを少しずつ積み重ね、売り上げへと繋げています。

・利用者昼食、グループホーム夕食の製造委託作業

～季節に応じた旬の食材を使用し、彩りある、栄養バランスを考えたメニュー作りに努めています。全国の事業所様との内需取引を継続的に進め、野菜、お肉、発酵食品、麺類など、様々な商品を献立へと取り入れています。全国のご当地メニュー等を昼食提供へ組み込み、また、月1回の「お楽しみメニュー」も利用者さんから好評を頂き、企画を継続して行なっています。食への興味や、季節感が感じられるメニューを提供することで、食事の楽しみや生きる源としての「食」を大切にし、安全、安心をより強化しながら、取り組みを進めています。

・紙工芸品と受注作業

～しめ飾り製造に重点を置いた紙工芸品作りでは、一年を通してパーツ作りに取り組み、完成度をより高める事が出来ています。今年度も全国より沢山の注文も頂き、利用者さん一人ひとりの活動意欲ともなり、売り上げへと繋げる事が出来ました。受注業務では、町内の公園清掃や文房具の封入作業等、季節に応じた様々な作業や委託業務へと取り組んでいます。ウエス製造も、少しずつですが、顧客も増えてきており、売上も伸びてきています。工程を細分化しながら、一人ずつの役割を明確化することで、生産量も皆で協力し、増やしていく事が出来ています。

□やりがいや楽しさを創出する活動

- ・作業活動のほか、体操や体を動かすかるたゲーム、季節に応じた制作、映画鑑賞等、様々な余暇支援を通して、息抜きと通所する楽しみを大切にしています。曜日毎に、作業と活動の時間を区切り、活動を通して、様々な事へと興味をもち、やりがいや達成感への創出に繋がるよう、取り組みを進めています。

■権利擁護

利用者さんの障がい特性や年齢も様々であり、利用者さん同士の人間関係など、日々の細かな対応が求められる中では、スタッフ朝会、終礼時のケース報告で日々話し合う事を積み重ねました。限られた時間の中で答えが出るものとそうでないものがありますが、支援上の課題を共有することや情報共有の機会にもなっています。

■苦情解決

今年度の苦情・要望受付は0件でした。相談受付箱に投函された苦情や要望はありませんでしたが、利用者さんが抱える不安や悩みを日々聞き取り、話しをする機会を設けています。少しでも、利用者さん一人ずつが過ごしやすく、通いやすい環境を整え、職員がすぐに相談、解決へと応じられる支援が出来ればと考えています。

■感染症対策

食品の製造販売を行なっていることから例年実施している利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施しています。体調不良者は、厨房に入らない（持ち込まない）を徹底し、利用者さんの体調管理と共に衛生面の確保に変わらず配慮しました。加えて、新型コロナウイルスの対策を重点的に行なっています。毎朝の検温、館内の消毒等も定期的に時間を決めて対応を行ない予防に努めました。ご家族とも連絡を取り合い、交通機関の利用時間変更や送迎対応なども協力を行ないながら進めました。

実際に体調が悪くなった際は、通所前にご家庭と連絡を取り合い、実施機関の福祉課とも連携し、感染予防に必要な在宅支援での対応を承認してもらうなどの調整も行ないました。

■災害対応・事故対策

今年度の避難訓練は、感染症対策の観点から、自主訓練1回、DVD鑑賞による訓練を1回実施しました。事業所全員が、1か所に避難で集まることは、感染リスクが高まるため、避難場所を事業班毎に設定し、密を避けながら、地震や火災を想定した通報、避難までの訓練を実施しています。地震や火災発生時の注意点や、避難経路、避難口の判断、優先順位などを利用者さんへお話ししています。常に動きを想定、イメージすることの大切さを改めて再認識し、避難の対応について、学ぶ機会となりました。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。会議はオンライン会議にて実施。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

■健康管理

今年度は新型コロナ感染対策により事業所での一括検診は実施していません。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	18	18	18	18	17	17
総支給額	386,200	387,200	403,200	361,400	307,800	288,200
平均額	21,456	21,511	22,400	20,078	18,106	16,953

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	17	17	17	17	17	17	208
総支給額	328,300	323,600	603,800	319,900	280,200	1,432,200	5,422,000
平均額	19,312	19,035	35,518	18,818	16,482	84,247	26,067

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	16	16	16	16	17	16
総支給額	220,300	204,400	203,200	196,200	180,300	149,200
平均額	13,769	12,775	12,700	12,263	10,606	9,325

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	16	16	16	16	16	16	193
総支給額	171,700	183,200	288,800	169,000	145,700	911,500	3,023,500
平均額	10,731	11,450	18,050	10,563	9,106	56,969	15,666

□事業所全体の平均工賃額 ¥21,061/月(33名)

5. 課題

今年度は、コロナウイルス感染症拡大の影響により、生産活動の収入にも大きく影響を受けております。利用者さんにお支払いする工賃として、毎年少しずつ増額することが出来ていましたが、今年度は前年度を上回る工賃のお支払いは厳しい状況となりました。就労事業でも様々な工夫を重ね、売上を積み重ねた成果は出ていますが、感染予防の対応の両立の中では、継続していく事が難しい状況は沢山出てきております。また、感染症予防の衛生管理体制の強化や見直しにも時間を要しており、今後も検証と見直しが必要と感じています。利用者さんが、毎日作業や活動に通所出来、自分の役割を担う事が工賃へと繋がり、遣り甲斐へと感じて頂けるよう、様々な環境の工夫が大切だと感じています。通う事への楽しみや自分の居場所とし、安心して受け入れられるよう、一人ずつの支援の視点を見直ししていけたらと考えています。

就労事業の報告

■事業班名：レインボー&クリアー

1. 取組みの概要

「レインボー班」は、クイリング製法で作成したしめ飾りや、季節ものの製品とウエスの製品製造に取り組んでいます。「クリアー班」では、企業からの様々な下請作業に取り組み、利用者さんの希望や障がい特性に応じて、二つの班に分かれて活動しています。レインボー班のしめ飾り作りでは、毎年購入して頂いているお客様からアドバイスも頂きながら、製品向上を目指し、一つひとつ丁寧に、注文へと応じていける様作成を進めています。ウエスも、顧客の方から定期的に注文を頂き、売り上げへと繋がり、新規のお客様も少しずつ増えています。ウエスの性質や価格にも満足して頂ける様、日々努力しています。クリアー班では、コロナの影響により、毎年取り組んでいました杖の組み立て作業が無くなっています。利用者の皆さんも少し気を落としてしまいましたが、他事業所から新たに下請作業が入った事で、気持ちの切り替えが出来、利用者さんの意欲へと繋がる事が出来ています。公園清掃では、昨年同様、空知の風のロゴ入りジャンパーを着て、4つの地域の公園清掃に取り組みました。また、玉ねぎの梱包作業では、受注の数は、例年より少なくなりましたが、一つひとつ、玉ねぎの品質を確認しながら、丁寧に梱包して進めています。



2. 成果

今年度は、コロナの影響で下請作業が減ってしまいましたが、一人ずつ担う役割や作業へと取り組む姿勢は、より利用者さん達の遣り甲斐や、自信へと繋がったと感じています。クイリング製品作りを楽しみながら取り組む方、ハサミを使用し、ウエスを裁断する方、ウエスのごみ取りを黙々と取り組む方等、人それぞれ得意な事や、やりたい工程を任される事により、意欲が高まったと感じています。

3. 課題

企業や顧客のニーズに対応しながら、事業を進めることが大事だと感じています。効率を重視した生産と支援の両立にも難しさも感じています。ペアリングや気持ちの変化により、作業へと身が入らない時や、作業する力が個々に違う為、環境の整備や利用者さんの力を最大限に引き出す工夫、モチベーションへと繋がる声掛けや支援が必要と感じています。

■事業班名：ぱん工房春いろ

1. 取組みの概要

新型コロナの影響で、販売先の規制があり、パン販売へに行けない分、店舗の新商品開発に力を入れています。塩パン、モーモーメロンパン、揚げドーナツ、5種の雑穀米パン、米粉のロールケーキ等、沢山の新品目を皆で考え、販売する事が出来ています。

また、母の日、父の日、夏のお中元時期には、利用者さんのご家庭にチラシを配布し、注文を頂いたり、仲間の事業所にも、イベントに合わせて紹介する事で、12月には、各事業者から、クリスマスケーキや菓子セット等、様々な受注が入り、売上にも繋がっています。ロールケーキも道内、道外の他各事業所から、定期的に注文を頂き、冷凍発送も継続しています。

感染予防対策では、店舗のレジ前とお客様との間に、パーテーションを設け、消毒の設置、店舗のパンを蓋付きの容器に入れ替える等、衛生面により気を配っています。新たに、ラッキー幌向店様への納品が増え、値段の交渉、バーコード付きのラベル作成等を進め、現在は週3回の納品をしています。お客様が飽きないように、新品目を定期的に提示しながら注文を頂いています。今後も異物混入やラベルの間違いなどに十分配慮しながら、取り組んでいきたいと思ひます。



2. 成果

新品目の入れ替え等により、店舗パンの売上が伸びています。春いろイチオシの商品である、キタノカオリ食パンや生食パンを購入されるお客様が徐々に増え、食パンブームの影響もあるかと思ひますが、リピーターも付いてきていると実感しています。新規の保育園様より納品依頼が入り、売上にも繋がっています。また、利用者さんのご家族の好意により、友人知人へと宣伝して頂いたり、注文を取りまとめて頂く等の協力もあり、積み重なる売上が春いろの支えともなっています。

3. 課題

食品表示法やHACCP義務化に向けて、取り組んでいる所ですが、法律を正しく理解していくことや、キャッシュレス化が進む中、誰でもスムーズにレジ操作や対応を行なえるようにしていきたいと考えています。1つの製品として、安全にお客様へ届けられているか等、適切なチェック体制作りが、今後とても大切だと感じています。現在注文を頂いている納品先を大切に、より多くの顧客を開拓し、売り上げ増を目指し、利用者さんの工賃へと繋げていけるよう努力していきたいと思ひます。

■事業班名：さんくっく

1. 取組みの概要

さんくっくでは、たのしいどうに通所されている方の昼食製造作業の他に、グループホームの夕食製造作業を行なっています。昼食製造では、利用者さんに喜んで頂ける献立を目指しています。グループホームの夕食製造では、作った料理を食数に合わせて計量し、正確に分けるよう心掛けています。また、衛生管理に気を付けて、安心して食べて頂けるように、食品の管理や製造を皆で協力しながら、取り組んでいます。



ピーマン肉詰めフライの製造様子



仲間の事業所の食材を使用した、きじ挽肉のトマトミートパスタと夏野菜そうめん

2. 成果

昼食製造では、引き続き、仲間の事業所の製品を使った献立立案や、珍しいメニューを取り入れる、また、手作りデザートを献立に取り入れる事で、作る利用者さんも楽しみながら取り組んでいます。月1回のお楽しみメニューでは、喜んで頂けるメニューを考えて提供しています。利用者さんのペアリングに考慮し、作業場所2か所を活用し、働きやすい環境の配慮や時間の工夫等も行なっています。

グループホームの夕食製造では、製造だけではなく、業者から届いた食材の検品業務、保管、管理等も合わせて取り組んでいます。また、冷凍食品の管理では、コンテナに食材名を記入したり、種類毎に分ける工夫等を行ない、食材の間違いや、利用者さんが視覚的に判りやすいような支援の工夫を進める事が出来ています。

また、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の記録は引き続き行ない、気になったことは記載し、より改善へと繋がる様な取り組みも行なっています。

3. 課題

衛生管理の面で、利用者さんへの声掛けや確認は、今後もより強化していく必要があると感じています。献立によっては、利用者さんの作業が少なく、手が空いてしまうことがあるため、月間献立を考える時に、作業工程や献立のバランスを考え、組み合わせの工夫や支援が大切だと考えています。より利用者さんの調理技術が高まり、色々な経験が重ねていける様、取り組んでいきたいと思えます。

■データ（たのしいどう）

1. 製造販売事業	売上 1 6 6 3 万円	工賃還元額	7 7 6 万円
2. 下請加工事業	売上 7 5 万円	工賃還元額	6 8 万円

令和2年度 きっちんどう 事業報告

1. 令和2年度事業の総括

令和2年度は新型コロナウイルスに翻弄された1年となりました。幸いに利用者、職員、ご家族の皆様の近親者といった方に感染者が出ることなく、無事に終えることができています。インフルエンザ等の感染症や食中毒などで体調を崩される方も出ず、振り返ると利用数も昨年を上回る状態で締めくくることができました。

福祉事業所として、新規の利用者が増えることはありませんでしたが、一度利用することが難しくなったケースのご家庭と事業所とで連携を取らせていただき、少しずつではありますが、安定した通所ができた1年でもありました。

感染症の予防として、これまでも「手洗い・うがい」を徹底しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大への対応として、アルコールでの「手指消毒」を追加。さらにパーテーションの設置や定時に館内の消毒を行なうなど出来得る予防策を講じて過ごしました。

それでも就労事業には大きな影響を受けました。きっちんどうを開設してからこれまでに少しずつ増えてきていた大口（行事やスポーツ大会、研修会や会議など）のご注文が全くなくなってしまいました。令和3年に入ってからこの状況に急激な回復をする見込みはありません。しかし、食事をするのを皆さんが止めてしまったわけではありませので、個々人のニーズにお応えできるような生産活動を進めていく必要性を感じています。

2. 実施事業

- 就労継続支援事業B型 定員14名 現員19名
- 生活介護事業 定員 6名 現員 5名

3. 令和2年度の利用状況

- きっちんどう全体（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	23	22	22	22	22	21	21	22	23	23	23	23	25	92.0%
開所日数	25	23	26	25	23	24	27	23	24	23	22	26	291	
延利用回数	456	418	451	465	422	426	461	434	447	457	413	504	5,354	

平均実利用数 18.4名（小数点第2位以下切り上げ）

体調不良、特に風邪症状のあった利用者さんには実施機関と連携し、在宅での活動を取り入れ、感染予防を行ないつつ、支援の提供をさせていただきました。

就労継続支援事業B型（定員14名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	18	17	17	17	18	17	17	18	18	18	18	18	19	102.9%
開所日数	25	23	26	25	23	24	27	23	24	23	22	26	291	
延利用回数	346	321	343	357	344	345	372	350	353	355	317	390	4,193	

平均利用数 14.5名（少数点第2位以下切り上げ）

12月から1名の利用者さんが生活介護事業へ異動しています。

生活介護事業（定員6名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	5	5	5	5	4	4	4	4	5	5	5	5	5	66.5%
開所日数	25	23	26	25	23	24	27	23	24	23	22	26	291	
延利用回数	110	97	108	108	78	81	89	84	94	102	96	114	1161	

平均利用数 4.0名（少数点第2位以下切り上げ）

12月から就労継続支援事業B型から異動しています。

4. 取り組みの概要

令和2年度の生産活動では、これまでの数年と比較すると弁当の受注量が激減した一年でした。人が集まる機会がなくなってしまったため、皆さんが一堂に会して食事をする機会もなくなってしまいました。店舗内のイートインも閉鎖し、テイクアウトのみの対応といたしました。カウンターにもエチケットシートを張り、お客様との飛沫防止対策も行ないました。新北海道スタイル安心宣言にも賛同し、お客様や館内で活動する皆さんが安心して行き来できる場所になるよう努めました。

環境を新スタイルに整えながら、生産活動ではできることを進めました。大口の弁当受注は激減しましたが、個配のお弁当はこれまで通り、変わることなくご提供することができています。

お好みの弁当を選んでいただけるようにいつでも用意できる定番のお弁当のメニューも時々メニューを入れ替え、視覚的にも飽きがこないように変化を付けながら提供をしました。



店舗カウンターのエチケットシート



店舗に掲示してある新北海道スタイル安心宣言

■権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「人権侵害ゼロの誓い」の署名を実施。併せて日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせも実施。今年度は例年のように委員会を対面で行なう機会を持たず、書面での情報共有やオンラインの職員会議など「権利擁護」について取り上げています。また、事業所内でガイドブックを使用しながらパート職員を含め、小単位で権利擁護について、周知を行ない情報の共有を進めました。特に新しい職員に対しては知的に障がいのある方を支援するための行動規範や、特性による個別な関わり方については繰り返し伝えています。

■苦情解決

苦情受付については、令和2年度0件となっています。

過去に利用者さん同士でのトラブルがあったことから、日頃から利用者さん同士のコミュニケーションなどにも気を配っています。何かトラブルが生じて改めて苦情や意見として申し出ることが難しい方たちでもある為、個々にスタッフから近況を確認させていただいたりして、悩みや苦情などが小さいうちに解消できるように日々対応を行なっています。

■感染症対策

食品の製造販売を行なっていることから例年実施している利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施致しています。体調不良者は、厨房に入らない（持ち込まない）を徹底し、利用者さんの体調管理と共に衛生面の確保に変わらず配慮しました。加えて、新型コロナウイルスの対策を重点的に行なっています。毎朝の検温、館内の消毒等も定期的に時間を決めて対応を行ない予防に努めました。ご家族とも連絡を取り合い、交通機関の利用時間変更や送迎対応なども協力を行ないながら進めました。

実際に体調が悪くなった際は、通所前にご家庭と連絡を取り合い、実施機関の福祉課とも連携し、感染予防に必要な在宅支援での対応を承認してもらうなどの調整も行ないました。

■災害対応・事故対策

避難訓練を2回実施しました。今年度は、消防署もコロナ対策を講じており、消防署の立ち合いなしでの自主訓練となっています。消防署から火事を未然に防ぐためのDVDを借用し、小グループに分け密にならないように視聴しました。実践の避難訓練は地震から火災発生を想定した訓練を実施しています。複数の出入り口があるため、毎回、火災の発生場所を変化させ、一番安全な避難経路や避難口を選んで逃げることを学ぶ機会となりました。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。会議はオンライン会議にて実施。
- ・事業所（班）会議・・・月一度の全体会議の他に、全体会議であがった案件や事業所の議案など、必要に応じて実施いたしました。
- ・個別支援計画策定会議・・・利用者の個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。個別支援計画原案をもとに支援計画の支援内容等について検討しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論し、作成に努めています。
- ・ケース会議・・・利用者について担当より報告し、事例検討を実施。支援方針を立案、共有しています。

■健康管理

今年度は新型コロナ感染対策により事業所での一括検診は実施していません。

■職員研修

年度内に参加した外部研修等に関しては法人の事業報告参照。

■施設整備状況

器具及び備品取得・・・急速凍結庫購入

■工賃支払い状況

就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	18	18	17	17	17	18
総支給額	454,900	447,600	449,400	393,000	425,000	400,700
平均額	25,272	24,867	26,435	23,118	25,000	22,261

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	18	17	18	18	18	17	211
総支給額	450,200	446,100	583,600	451,200	412,900	808,900	5,723,500
平均額	25,011	26,241	32,422	25,067	22,939	47,582	27,126

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	5	5	5	5	5	4
総支給額	80,500	63,900	65,600	62,500	64,400	53,500
平均額	16,100	12,780	13,120	12,500	12,880	13,375

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	4	4	4	5	5	5	56
総支給額	62,400	63,400	94,800	73,800	70,300	187,300	942,400
平均額	15,600	15,850	23,700	14,760	14,060	37,460	16,829

□事業所全体の平均工賃額 ¥24,966- (24名)

5. 課題

利用者さんの「働く」という自覚や意識はどんな環境にあっても変わらず高く感じられています。他の企業でも苦しまれています。外食産業では新型コロナ対策で深刻なダメージが残る状態となりました。きっちんどうでは仕出し・宅配をしておりますが、製造する弁当数が激減致しました。新型コロナ感染拡大防止対策の中で、仕事を確保することが大きな課題となっています。

作業面においては、作業量が軽減したことにより、普段できなかったことにチャレンジしてみたり、経験しづらかった作業工程に時間をかけて取り組むことができました。包丁作業や加熱調理など時間に迫られる中では限られたメンバーでしか行なえない工程も時間をかけて付添い、取り組むことができました。

今年度支払う工賃はかなり厳しい状況となっています。前年比より大幅に減となりました。今後は、コロナ共存の中で必要とされる販売方法を模索していく必要があります。個々のお客様からのニーズに応じた注文を受け、利用者さん一人ひとりが役割を担い、やりがいを持って作業に取り組める事業所でありたいと考えています。

就労事業の報告

■事業班名 てのひら

1. 取組みの概要

食品製造班として、おにぎり・お弁当の製造販売、利用者昼食提供に取り組みました。

製造工程では、これまで以上に衛生面に気を付け製造に当たっています。これまで食材に触れる工程ではビニール手袋を着用していましたが、洗いや完成品を触る際には手袋を着用しない工程もありました。しかし、この新型コロナ感染拡大の状況下では、どこで何が起き得るのか想像できないことばかりとなりましたので、厨房に入る全ての方に手袋着用をルール化。配達時にも手袋を着用するようにしました。

お弁当製造では、これまでお客様から要望の高かった商品の見直しや新たな定番弁当のメニューを提案しています。

コロナ禍で思うように買い物に出れないお客様もおられたので、例年よりもメニューの入れ替えを増やして、お客様に食事を楽しんでいただけるように努めました。

また、7月には、レジ袋の有料化が始まりました。他のお店と同様に店舗でのお客様にはレジ袋をご購入いただくように致しました。配達をしているお弁当の袋については、バイオマスプラスチック配合(25%以上)等の一定条件を満たした袋を採用し対応しています。

おにぎり製造でも肉巻きおにぎりを中心に事業所間販売を進めておりましたが、製造に不可欠な機器に不調が発生し、製造を必要最低限で行なわざるを得ない状況となりました。



お弁当の製造風景



開店以来の人気メニュー
唐揚げ弁当



お魚メニューの選択肢
鯖の塩焼き弁当



バイオマスプラスチックを
配合した袋

2. 成果

1年間、見通しの立たない新型コロナの感染状況下でしたが、自分たちができる「手洗い・うがい・消毒」をはじめ、アルコール消毒・次亜塩素酸ナトリウム（希釈液）・次亜塩素酸水などによる館内の消毒を継続して実施。利用者さんにもお弁当を購入していただいた方たちにも感染症や食中毒などの報告はありませんでした。

お弁当・おにぎり事業の収入では、前年度と比較すると大変大きな減収を強いられて

います。弁当事業では少しずつ手を加えていった定番のメニューの変更が、既存のお客様の楽しみだけではなく、新規のお客様の受注にもつながり始めました。高齢者施設の昼食提供でも、高齢者の方の状態に応じた提供方法で今年度も事故なく終えることができ、年度末には他の高齢者施設様よりお弁当の注文をいただくことができました。おにぎり製造でも受注した肉巻きおにぎりを無事に納品することができました。年度末に急速凍結庫を新調できたので、新年度にはまた肉巻きおにぎりをたくさん製造していけるようになっています。



新調した急速凍結庫

3. 課題

新型コロナウイルス感染防止の対応に迫られた1年となり、今後、コロナ共存の中での生産活動を進めていく方法を模索しつつ進めています。これまで力を入れていた事業所間取引を含み、これまで行なってきた販路をもう一度見直し、製造量を確保すること。作業をしっかりと確保することで、きっちんどうの「お弁当・おにぎり製造事業」がコロナ禍でも維持できるような活動とすることが次年度の課題と感じています。

■ 事業班名 まごころ

1. 取組みの概要

下請加工事業班として、自動販売機の管理の実施。

全国の事業所製品の仕入れ販売を店舗にて行ないました。

2. 成果

自動販売機の売上手数料は、商品が入れ替わると一時的に売上が上がりますが、例年に比べると毎月の収入は減少しています。

3. 課題

全国の事業所製品の販売では法人全体として取り組んでおり、イベントや販売時期も考慮しつつ仕入れる製品の選定も必要となります。

現在は生産活動で必要になる、お弁当用の割り箸の袋入れやチラシ折りなど収入に結びつかない作業を行なっている現状がありますが、利用者さんの年齢や体調面も考慮して携われる作業を創出し収入面も検討していく必要があります。

■ データ

1. 製造販売事業 売上1, 481万円 工賃還元額 : 651万円
2. 下請加工事業 売上 15万円 工賃還元額 : 15万円

令和2年度 あかるいどう 事業報告

1. 令和2年度事業の総括

あかるいどうは、新しく利用者さん2名を迎えて、より多様化するニーズの活動拠点としての取り組みを進めてきました。令和2年度は、新型コロナウイルスの世界的な蔓延による様々な影響があった中、感染症対策に力を入れながらも作業・活動の充実を図り、よりやりがいの持てる事業を継続していくことに力を注いだ1年でした。これまで請け負ってきたおしぼり包装作業では、1年を通して、おおよそ安定的な数量の委託を請けることが出来、高齢者施設の清掃作業においても、感染予防を徹底しながら、1年間滞りなく取り組ませて頂くことが出来ました。その他の下請業務には、アクアリウム設置・管理業務がありますが、こちらは現在の社会情勢の影響を受け、当初予定していたアクアリウム設置が中断されるなど、作業内容によって新型コロナウイルスに右左された1年間となりました。

その他では、事業所内における創作活動や清掃業務委託を通じた、日中活動支援を実施しました。創作活動においては、岩見沢市内にアール・ブリュットギャラリーが開設されたのを皮切りに、全道で多くの展示会が開催されたことで、あかるいどうの利用者さんが作者として注目を集め、札幌市や岩見沢市内の各所にいくつもの作品が展示されました。展示された作品に対し、今年度、初めて謝礼金を頂くことになり、作者となる利用者さんに工賃として還元することが出来ました。また、北海道や岩見沢市で作成される福祉計画の冊子の表紙に利用者さんの絵画が選ばれるなど、これまでアート活動に取り組んでいる事業所として様々な発信を続けてきたことが、僅かではありますが、実りを付けてきていることを感じる事が出来た1年間でもありました。

2. 実施事業

就労継続支援事業B型	定員10名	現員11名
生活介護事業	定員10名	現員13名

3. 令和2年度の利用状況

■あかるいどう全体（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	23	23	23	23	24	24	24	24	24	24	23	24	24	96.4%
開所日数	25	23	26	25	23	24	27	23	24	23	22	26	291	
延利用回数	467	443	479	484	462	476	513	466	468	454	400	496	5,608	

平均実利用数 19.3名（小数点第2位以下切り上げ）

■就労継続支援事業（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	10	11	11	93.7 %
開所 日数	25	23	26	25	23	24	27	23	24	23	22	26	291	
延利用 回数	253	238	263	261	212	225	242	221	214	200	173	223	2,725	

平均実利用数 9.4名（小数点第2位以下切り上げ）

■生活介護事業（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	11	11	11	11	13	13	13	13	13	13	13	13	13	99.1 %
開所 日数	25	23	26	25	23	24	27	23	24	23	22	26	291	
延利用 回数	214	205	216	223	250	251	271	245	254	254	227	273	2,883	

平均実利用数 10.0名（小数点第2位以下切り上げ）

4. 取組みの概要

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

- ・製造販売事業～日々の昼食製造と事業所間の昼食や歩～夢の夕食・朝食の惣菜製造を行ってきました。少ない人数の中でも、一人ずつが責任を持ち、自分達の仕事に自信をもって取り組んでいる様子が伺えるようになってきています。作る事の楽しみや達成感を大切に、「食」について、今後も興味を高めていけるように、また衛生管理を徹底しながら支援を実施しました。法人内の昼食に利用して頂いている惣菜も、年間を通して安定的な製造数で注文を受けることが出来ました。
- ・下請加工事業～感染予防を徹底しながらの高齢者施設における清掃、おしぼり包装作業を、1年間事故なく取り組みを続けることが出来、技術の向上も見られています。しかし、アクアリウムの設置・管理業務では、コロナ禍による影響もありましたが、今後に希望を持って、事業所内で金魚の飼育を続けています。
- ・アート活動～引き続き法人内の各店舗に飾るレンタル画を、利用者さんの特技を生かした技法で制作し、定期的に作品の入れ替えを行ないました。一人ひとりが好んだ創作内容や得意とする技法を選択することで、個々の才能が素晴らしい作品となって生まれました。また、ギャラリーに展示された作品の作者に対して、謝礼金が支払われることになり、工賃として還元されるという嬉しい出来事もあり、皆さんの創作意欲が高まっています。



あかるいどう内アクアリウムで育てている金魚



各事業所へのレンタル絵画（共同制作）

■権利擁護について

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行われている「権利侵害ゼロの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせを実施し意識の向上を図りました。また、利用者支援において、事前に対応をチームで決める等、ケース対応について検討しております。

■苦情解決委員会

苦情受付については、令和2年度、受付件数は0件となっています。利用者さんから、日々、作業や生活している中で感じる疑問や悩み等の相談を受け付け、一人ひとり面談を行ないながら、随時解決へ向けての対応を行なっています。

■感染症対策

令和2年度は、新型コロナウイルスの蔓延防止のため、更に強化した感染予防の対策に取り組んできました。手洗いうがいや靴底消毒の徹底、毎日の検温等による体調管理、館内の定期的な消毒、パーテーション設置など、事業所内の利用者・職員共に徹底した対策を実施し、ご家庭でも予防に取り組んで頂けるようお知らせしています。また、その他の感染症については、月一度の検便も大きな役割を果たしています。

■災害対応・事故

非常災害・事故対策では、避難訓練を7月・11月の2回実施しています。7月の実施については、大声を出すことによる感染リスクを鑑み、災害DVDの鑑賞のみの訓練を行ないました。また、12月の実施には地震からの出火を想定した、大声を出しすぎない訓練を実施し、災害時の対応、避難経路、避難方法、避難先等を再度確認する機会としました。

■年間行事

日時	展覧会名	備考（出展者他）
5/12～31	「アール・ブリュット展」（市立図書館）	コロナのため中止
9/7～29	「岩見沢のアール・ブリュット」展	渡辺さん、河上さん、黒壁さん
9/15～10/30	「わたしの家、わたしの町」展（札幌市）	河上さん
12/15～20	いわみざわハート&アート 2020	渡辺さん、河上さん、木元さん 佐藤さん、小山さん、黒壁さん 阿部新さん
12/24～2/16	「いきものだもの」展	佐藤さん

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。オンラインにて実施しています。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかりやすく提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

■健康管理

- ・年に1回行っていた健康診断をコロナウイルス蔓延防止のため、中止しています。
検温を含めた日々の体調チェックを万全にし、事業所内の健康管理としました。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	12	12	12	12	12	11
総支給額	255,100	233,600	251,700	226,700	238,700	200,900
平均額	21,258	19,467	20,975	18,892	19,892	18,264

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	11	11	11	11	11	11	137
総支給額	244,400	227,000	412,200	233,400	191,000	540,400	3,255,100
平均額	22,218	20,636	37,473	21,218	17,364	49,127	23,759

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	11	11	11	11	11	13
総支給額	128,600	113,400	133,600	128,700	111,100	124,700
平均額	11,691	10,309	12,145	11,700	10,100	9,592

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	13	13	13	13	13	13	146
総支給額	151,200	151,400	236,800	150,100	128,400	382,800	1,940,800
平均額	11,631	11,646	18,215	11,546	9,877	29,446	13,293

□事業所全体の平均工賃 ￥ 18,360—(24名)

5. 課題

令和2年度は、コロナ禍にあっても、企業からの業務委託を安定的に受注できるよう、感染予防を徹底し、防護服や備品などを整備しながら取り組んできました。その甲斐もあり、概ね安定した取り組みになりましたが、収入としては令和1年度を下回り、平均工賃額も大きく下回る結果となりました。今後も工賃の向上を視野に事業の運営を進めていくためにも、作業種を整理し、利用者に適した事業の柱を新たに創出していくことも検討していくべき課題であると感じました。また、日中活動として創作を進める上で、1点の作品を完成品として創り上げるまでに時間を要し、展示会へ向けた作品制作と、絵画レンタルの定期的な入れ替えやカレンダー制作などとの両立が難しく、常に期限に追われている状態が多かったと感じています。また、展示会による、利用者さんの芸術作品の啓発や、活動への成果報告に繋げることは確実に増えてきていますが、販売に向けた商品化や営業等を進める事は、なかなか難しく、課題が残ったと感じます。今後も、作品の魅力や活動内容を外部へ発信していけるように、取り組んでいきたいと思ひます。

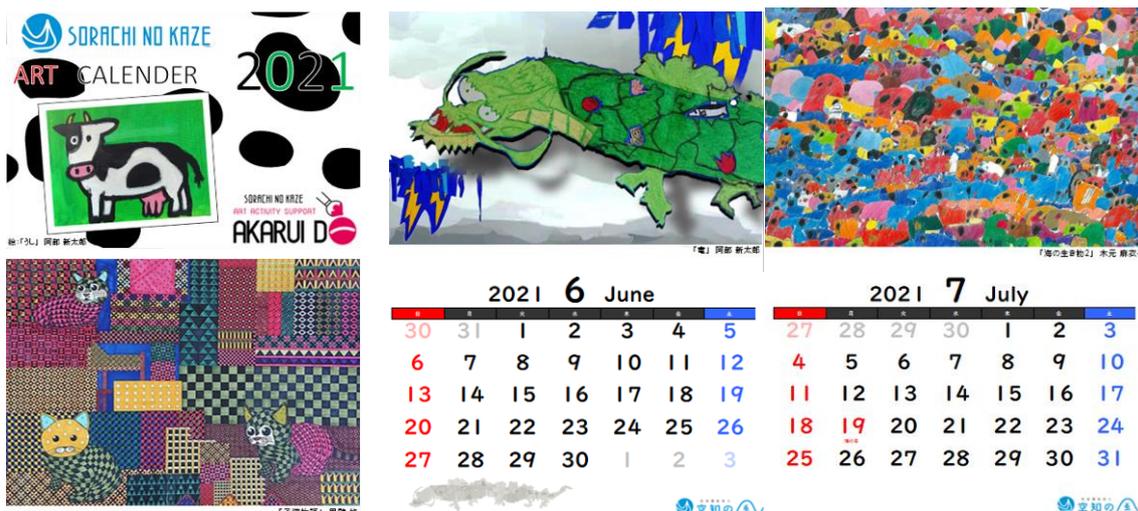
就労事業報告

1. 取組みの概要

■事業班名 下請け加工事業 さんさん

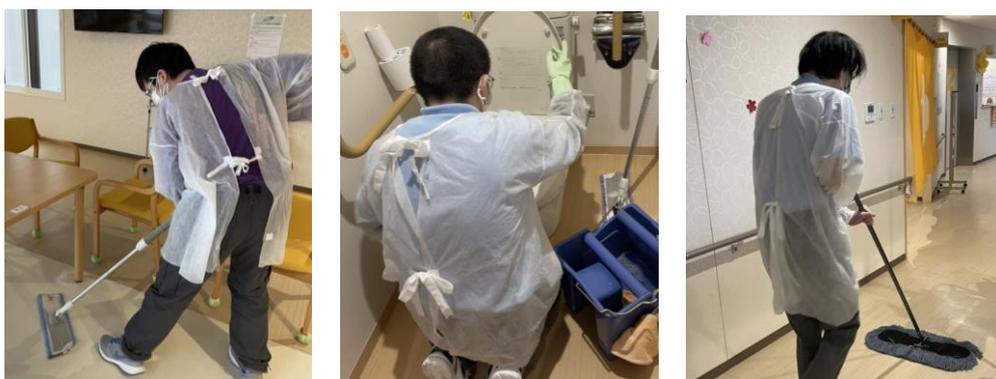
「さんさん」では、企業からの業務委託として、介護付き有料老人ホームの清掃とおしぼり包装、検品作業に取り組みました。事業所内では、主に創作活動と館内清掃、水槽の水替え委託業務に取り組みました。

創作活動では、各事業所や食堂へのレンタル画や展示会への出展に向けた作品作りなど、アート製作の活動に日々取り組んでいます。絵の具やクレヨン・サインペンを使用した絵画や立体作品等、個人作品から共同制作へと、1点ずつ心を込めて皆で楽しく作り上げ、多くの展示会に出展させていただきました。また、仲間の事業所から絵画の注文を頂き、作品の納品を行なうことが出来ました。年末には、利用者さんの絵画をデザインとして取り入れた、2021年オリジナルカレンダーを制作、販売を行ないました。お世話になった施設や役員の皆さんへ、法人からの挨拶として、カレンダーをお渡ししています。



1年の集大成とも言える、2021年カレンダーを制作し、多くの方の手に取って頂きました。

清掃委託業務では、事業所内の作業場、トイレの清掃、施設周りのごみ拾い等を行ない、皆さんが過ごしやすい環境作りを目指し、取り組んでいます。また、高齢者施設の清掃では、スタッフと連携を取りながら、清掃箇所や清掃場所の確認を行ない、滞りなく作業を進める事が出来ました。今年度はコロナ禍という事もあり、体調管理により一層努力しました。利用者さんが自分の役割りや、チームとしての協力体制、施設外での作業の取り組みへの意識等、やりがいや働きがいを感じながら、日々清掃業務に当たりました。



老人ホーム「オアシス」での清掃の様子

おしぼり巻き作業では、1日平均7,000本程のおしぼりを巻きました。おしぼりにシミやゴミが付いていないか1枚1枚確認を行なった後、おしぼり巻き機に流す作業を行っています。集中力や忍耐・体力を必要とする作業ですが、懸命に作業に取り組んでいます。水槽の水替え作業は、水質管理の難しさがありましたが、事業主の指導の下、水の交換方法、塩分濃度や水質の検査方法を学びながら取り組みを進め、水質を安定させる事が出来ています。今後は外部への水槽設置管理を目指していきます。



シミやゴミの確認の様子とコンテナを協力して運ぶ様子

■事業班名 製造販売事業 にここ

食品製造班にここでは、利用者さんの昼食製造と、各事業所へ納品するハンバーグやサラダなどの惣菜製造を行っています。衛生管理をしっかりと行ない、みなさんに安心安全でおいしい食事を提供できる様、努力しています。



2. 成果

活動（製造、創作活動、清掃、委託業務）を通じて、あかるいどうで過ごす利用者さんにとって、働く事への意欲や芸術作品への創作意識、自身の居場所や生きがい、やりがいを感じられたのではないかと感じます。また、施設外就労では、事業所の外で働くことを通じて、社会的ルール等を身に付ける良い機会にもなりました。おしぼり巻き作業では、丁寧さ正確さを維持しながら取り組んできたことで、巻く本数も増えてきたと思います。

今年度は残念ながら、予定、計画していた多くの展示会が新型コロナウイルスにより中止を余儀なくされましたが、4月に岩見沢アール・ブリュットギャラリーが開設され、定期的に作品を展示する機会に恵まれました。12月には、岩見沢市民会館まなみーるで行なわれた「ハート&アート展」に作品を出展させていただき、岩見沢市や他の障がい者事業所と連携し岩見沢市の障がい者アートを盛り上げる事が出来たと思います。



3. 課題

利用者さんの特性に応じた作業内容、ニーズに対応した個々の環境整備や治具、視覚情報の整備が、今後も必要だと感じています。また、アート制作した作品を製品として製造、販売、継続したレンタルへと進められるように取り組み、より利用者さんのもつ感性豊かなアートの魅力を広げられる様、啓発活動により力を入れていく事が大切だと感じています。工賃向上に向けた作業の確保と作業環境の改善へ取り組みを続け、一人ひとりの利用者さんの生活が豊かになるような、支援を目指していけたらと思います。

■データ（あかるいどう）

- | | | | | |
|-----------|----|-------|-------|-------|
| 1. 製造販売事業 | 売上 | 330万円 | 工賃還元額 | 209万円 |
| 2. 下請加工事業 | 売上 | 367万円 | 工賃還元額 | 310万円 |

令和2年度 わくわくどう 事業報告

1. 2年度事業の総括

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による影響を受けた年となり、日常の環境変化や感染症予防が中心の1年となりました。幸いに利用者さんやご家族、職員の中に感染された方はいなく、例年とは異なる様々な生活スタイルを取り入れた中でみんなが健康に過ごすことができ利用数も昨年と変わらず終わる事ができました。

活動は、空知総合振興局5階で行なっている「そらかぜ食堂」の運営と市内にあるおしぼり工場「北海道クリーンアクト」での施設外就労に分かれて支援を行ないました。

そらかぜ食堂は、昨年度5年間の契約期間を満了し、新たに5年間の随意契約として契約を結び1年目の年となりました。

年度当初の予定では、庁舎の老朽化対策工事により3カ月の休業期間に伴い、市役所食堂の運営を進める予定でしたが、感染症の観点から断念する形となり急遽、印刷製造作業へ方向性を変えて、休業期間中の利用者さんの作業を確保する取り組みを進めました。

食堂運営では、庁舎内職員の皆様の昼食を提供することは勿論、3密を避け食事の際の感染症対策を徹底して取り組みました。今後も、安くて美味しい便利な食堂として活動を進め、皆様が安心して食事ができる食堂として取り組みを進めていきたいと思えます。

北海道クリーンアクトでは、おしぼり製品の検品作業、回収済おしぼりを汚れに応じて仕分けを行なう作業に取り組みました。6名の利用者さんがそれぞれの役割を担うことで成長を感じられますが、企業にも感染症の影響が大きく昨年までとは違う状況があり連携して作業予定の調整や確認を行ないながら、全員が責任感を持って取り組めていました。

2. 実施事業

- 就労継続支援事業B型 定員20名 現員14名

3. 令和2年度の利用状況

- わくわくどう全体（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	61.0%
開所日数	25	23	26	25	23	24	27	23	24	23	22	26	291	
延利用回数	305	285	305	302	296	296	311	295	291	293	255	317	3,551	

平均実利用数12.2名（小数点第2位以下切り上げ）

14名の登録で利用されています。新たな利用者の受け入れはありませんでしたが、年間通して、施設外場で活動を続けることができています。

■就労継続支援事業 B 型（定員 20 名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	61.0%
開所 日数	25	23	26	25	23	24	27	23	24	23	22	26	291	
延利用 回数	305	285	305	302	296	296	311	295	291	293	255	317	3,551	

平均実利用数 12.2名（小数点第2位以下切り上げ）

4. 取組みの概要

■利用者支援

□事業所内での生産活動

・「そらかぜ食堂」の運営

空知総合振興局 5 階にて、道職員の皆様を中心に食事の提供を行なっています。これまでの売れ筋の定食メニューは固定化し販売用小鉢のメニューも定食との組み合わせやコストを考えながら提供しました。また毎月「期間限定メニュー」として、新商品の開発・販売も行ないつつ、材料や仕入れ先の見直しを行ない価格調整も検討しながら取り組みました。感染症拡大予防のため職員の時間差出勤などによる利用客数の変動や、3 か月間の休業期間後の客離れなどが見受けられ 3～4 割減少し、昨年までのように安定した状況とはなりません。利用者さんの作業面では調理技術の向上が見られています。レジ打ち担当の利用者さんもキャッシュレス導入後、徐々に操作を覚えて担当する事も出来るようになり、それぞれ役割を担い協力して取り組みを行ないました。

□施設外就労支援

・北海道クリーンアクトでの施設外就労作業

おしぼり仕分け作業・検品作業を行なっています。感染症による影響から例年までのように繁忙期の忙しい環境は少なかったですが、利用者さんも年々と達成感や責任感が感じられる様子が見られています。より質の高いおしぼり製品になるように、みんなでおしぼり・検品作業の基準の確認を行ないながら進めました。作業中の衛生面のルール化や、作業終了時には衣服や靴などの消毒を行なってから退室するように強化したケアを行ないました。

□印刷製造作業

・そらかぜ食堂の休業期間中 8 名の利用者さんと、作業工程を少しずつ伝えながら進め、食堂再開後は北海道クリーンアクト 6 名の土曜日作業を中心に進めています。

■権利擁護

そらかぜ食堂8名、北海道クリーンアクト6名に分かれていることもあり、それぞれ現場で少人数での対応が行なえています。少人数での長い活動時間を共に過ごしていると人間関係の距離が近くなっていきます。支援中の声掛け、働きかけなど改めて権利擁護の視点から一つひとつの支援について考え、特性による個別な関わり方、課題を共有することなど情報共有の機会にもなっています。

■苦情解決

今年度の苦情・要望受付は0件でした。日々利用者さんの悩みや相談の聞き取りをしています。特に利用者さん本人の作業へのスキルアップや、他利用者さんとの関係性についての相談が、日常での会話から聞こえてくる事もある為、その都度対応と見守りを行なっています。訴えることが苦手な利用者さんもあり、日々の表情や行動の変化に配慮し、親御さんとも情報の調整を行ない、利用者さん自身ご家族が安心して利用できるための環境作りに今後も努めます。

■感染症対策

利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施しています。加えて、新型コロナウイルスの対策を重点的に行なっています。毎朝の検温、館内の消毒等も定期的に時間を決めて対応を行ない予防に努めました。ご家族とも連絡を取り合い、交通機関の利用時間変更や送迎対応なども協力を行ないながら進めました。

実際に体調が悪くなった際は、通所前にご家庭と連絡を取り合い、実施機関の福祉課とも連携し、感染予防に必要な在宅支援での対応を承認してもらうなどの調整も行ないました。

■災害対応・事故対策

今年度は、感染症を考慮し消防立ち合いの避難訓練は行なえず自主訓練を1回、消防署よりお借りしたDVDを観て学ぶ訓練を1回実施しました。同建物を利用されている業者との合同避難訓練は実施できませんでしたが、通報方法や避難口を塞がれてしまった際の脱出方法など、実践想定で訓練を行なうことができています。事業所としては、まだまだ経験が少ないため様々な想定訓練や防災対策を進め、同時に、作業活動先での避難方法なども訓練時に伝える機会としました。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。会議はオンライン会議にて実施。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかりやすく提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

■健康管理

今年度は新型コロナ感染対策により事業所での一括検診は実施していません。

■工賃支払い状況

就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	14	14	14	14	14	14
総支給額	439,400	398,400	441,600	383,700	371,700	375,500
平均額	31,386	28,457	31,543	27,407	26,550	26,821

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	14	14	14	14	14	14	168
総支給額	418,200	411,100	488,600	410,300	370,900	536,000	5,045,400
平均額	29,871	29,364	34,900	29,307	26,493	38,286	30,032

事業所全体の平均工賃額 ¥30,032/月(14名)

5. 課題

そらかぜ食堂、庁舎の老朽化対策工事による食堂休業期間や、感染症が拡大し社会的に今までの生活スタイルの変更を余儀なくされる情勢などが生じた際に、北海道クリーンアクトでの施設外就労の場でもやむおえない事情が生じる場合等、大きく利用者さんの「はたらく場」の確保や支援する環境として、安定して継続できるように整えなければならないことが重要であることを痛感いたしました。

年度の途中からの変更事業ですが、事業所内で取り組める作業として、印刷製造作業の製造体制を整える準備期間にもなりました。今後は増産体制を整えて利用者さんの働く場の確保と合わせて工賃向上を目指して進める取り組みが必要です。

就労事業の報告

■事業班名：そらかぜ食堂

1. 取組みの概要

空知総合振興局食堂の運営も継続契約を行なって、6年目を迎えました。道職員さんの健康に欠かせない昼食提供、外から来店されるお客さんも満足される「安くて」「早くて」「美味しい」メニューを安全に衛生的に提供できる様に調理作業を行なっています。



期間限定メニュー
カルボナーラ



サラダ小鉢



B定食



十割蕎麦

2. 成果

空知総合振興局の給排水工事に伴い、食堂も8、9、10月の3カ月間、休業していましたが、年間来客数は、13,465人、月平均1,496人、1日平均73人の来客がありました。

また新型コロナウイルス感染拡大防止の一環で、座席数を減らし、パーテーションの設置、レジでの非接触接客対応で取り組んでいます。会計時のキャッシュレスも1/3のお客様が利用されていて、今後も増加傾向となっていく予想がされますので、継続していきます。

3. 課題

多くのお客様が集まる食堂運営ですので、新型コロナ感染拡大防止はもとより、あらゆる感染症に対しても警戒が必要と思われますので、より一層の清掃・消毒・衛生面・健康管理等の対策を事業所としても個人としても自覚を持ち意識した継続的な取り組みが重要です。

4. データ

利用者実人数：8名

営業開店日数：183日（※3カ月間休業）

生産活動売上：683万円

工賃還元額：304万円

令和2年度年間ランキング

1位～B定食	(36.3%)
2位～A定食	(31.5%)
3位～カツカレー	(5.5%)
4位～カレーライス	(4.0%)
5位～みそラーメン	(1.9%)
6位～しょうゆラーメン	(1.9%)
7位～小鉢	(1.7%)
8位～ソースカツ丼	(1.6%)
9位～鍋焼きうどん	(1.6%)
10位～特盛ざるそば	(1.3%)

(%はオーダーに占める割合)



■事業班名：施設外就労

1. 取組みの概要

北海道クリーンアクトより、作業を業務委託で請け負っています。おしぼりの汚れ度合いを分別し、判断が難しい仕分けも経験を積みながら精度を上げてきました。検品作業では商品の異物混入や包装フィルムの破れなどがないように注意して毎日チェックを行ないました。



おしぼり検品作業

2. 成果

検品作業・仕分け作業では、利用者さん一人ひとりに大きな自信へと繋がっているようです。

仕分けや検品作業がない場合にも、回収した未使用おしぼりの袋出しを実施したり、コンテナや台車を綺麗に拭いたりと、普段、不足している部分を担って進める事ができています。



3. 課題

コロナウイルスの影響は飲食店を直撃し、おしぼりの出荷量にも大きな影響を及ぼしています。回収されてきたおしぼりの作業を行なう中で、少しでも感染リスクを下げて業務を進められるように、衛生管理の徹底が重要。

4. データ

利用者実人数：6名

生産活動売上：186万円 工賃還元額：176万円

■事業班名：印刷製造作業

1. 取組みの概要

当初は、そらかぜ食堂休業中の利用者さんの作業としてTシャツプリントを始めましたが、食堂再開後はクリーンアクト利用者さんの土曜日作業として取組みを進めました。

2. 成果

次年度の体制作りとなり、今後、生産を進めていく準備期間となりました。

3. 課題

製造体制を安定させ、様々な商品の増産や営業を進めて行くことが必要になります。

4. データ

生産活動売上：77万円 工賃還元額：23万円



ラバーかすとり作業

令和2年度 歩~夢 事業報告

1. 令和2年度事業の総括

令和2年度の運営について、宿泊体験は新型コロナウイルス感染症対策の為、4月から10月について積極的な受け入れは行なわず、12月から徐々に受け入れを行なっています。

また、今後のグループホーム利用を考えている方の相談や宿泊体験の希望も含め、他法人や相談支援事業所より相談や問い合わせがありましたが、感染症対策の事もあり状況を見ながらの相談と受け入れを行なう事で対応させていただきました。

余暇支援の面では、感染症対策の為、定例の行事や買い物支援についても十分に実施することが難しく感染症の状況に合わせた対応となりました。

全体的な利用者支援については、感染症対策の為、定期的な健康診断を行なう事はできませんでしたが、数名の方のみ市内の人間ドックを実施しています。また、通院についても発熱以外であれば、病院と連絡を取り合い利用者さんが長時間病院内に待機しなくてもいいよう対応させていただきました。

今後も感染症予防を行ないながら余暇活動の充実と、一人一人個別の暮らしの質の向上に努め、人権擁護や虐待防止に一層取り組み、日中活動との連携を重視して事業を行ないたいと思います。

2. 実施事業

共同生活援助事業所（合計定員40名）※宿泊体験5名含む

春が来た荘	定員5名	現員4名	(宿泊体験 1名)
夏色荘	定員5名	現員5名	
秋いろいろ荘	定員5名	現員4名	(宿泊体験 1名)
冬暖か荘	定員5名	現員4名	(宿泊体験 1名)
ハラダハイツ	定員2名	現員2名	
コーポハラダ	定員2名	現員2名	
桜なごみ荘	定員4名	現員4名	
もみじ色づき荘	定員5名	現員4名	(宿泊体験 1名)
ふきのとう	定員3名	現員3名	
みないい荘	定員4名	現員3名	(宿泊体験 1名)



3. 令和3年度の利用状況

※定員40名（宿泊体験5名：10月～3月）※年間365日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	35	35	35	35	35	35	36	35	36	36	36	38	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用 回数	1,041	1,080	1,041	1,055	1,036	1,018	1,077	1,044	1,066	1,036	945	1,053	12,492

※平均実利用者数 35.5名（小数点第2位以下切り上げ）

※令和2年4月から令和3年3月まで退所された方は男性1名

今年度については、新型コロナウイルス感染症対策の為、帰省を一時中止させて頂いた期間がありました。今後ご家庭の協力を頂きながら、感染症対策を行ないながらの帰省対応になっていくと思います。

※宿泊体験

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	4	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	366
延利用 回数	0	0	0	0	0	0	12	0	2	5	6	14	39

宿泊体験の利用については感染症対策の為、受け入れを一時中止し10月より再開は致しましたが、受け入れ人数を限定していた事もあり利用率は減少となっています。

宿泊体験の相談としては、他法人から市内に企業就労をされている方の生活の場の提供、また、相談支援事業所から新型コロナウイルスの影響で、精神的なストレスの緩和の為の利用の依頼など様々なケース相談や見学があり、それぞれ対応をさせて頂きました。

4. 取組みの概要

■利用者支援

昨年度に続き、南町のエリアと市内中心部を拠点とした支援を行なっています。職員の動きについては連絡ツールが整い、互いに連絡を取り調整を行なう事で効率よく支援ができるようになっていきます。一方、利用者さんの加齢などにより食事や入浴などの基本的な日常生活動作に手添えや介助などが必要なことが増えていることから、将来の住環境整備も課題として検討していく必要を感じています。また、日々の挨拶や町内会の清掃活動を引き続き行なっている中で、皆さんから少しずつ気にかけて頂くことも増えてきたように思います。今後も継続して地域社会の一員として役割を行なえるように取り組みます。

■権利擁護

今年度は、感染症対策の為、世話人会議の場を作ることが出来ず法人で作成されたガイドブックを使用し少人数で数回に分けた研修を行なっています。常勤については、リモートを通じた全体会議の場で権利擁護や虐待防止についての内部研修を実施しました。今年度、職員の外部研修については、感染症対策から参加が難しくフィードバック研修する機会がありませんでしたが、常に専門職としての知識や意識の向上に努めています。

■苦情解決委員会

今年度の苦情・要望が0件となっています。

職員や住居環境等については話はありませんでしたが、利用者さん同士の携帯電話を利用したネットツールでのやり取りについての相談が多く感じられました。また、感染症対策からの外出、帰省、札幌との往来などについて、いつになれば許可が出るのかなどの相談が多く、都度本人さんたちとの面談を行なっています。

■感染症対策

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の為、マスク着用、うがい、手洗い、消毒の声かけ等の支援や住居内の消毒、換気を行っていた為、インフルエンザや他の感染症についても発症する方はいませんでした。

今後も引き続き新型コロナウイルスの感染予防を始めとした、感染症に関して、チェックシートを使用した体調の確認を行ない、グループホーム全体の消毒に努めています。買い物・外出・帰省などについても各家庭にご協力を頂きながら制限を行なっていきたいと思います。

■災害対応・事故対応

防火訓練では、各住居にて避難訓練を行ないました。今年度は、消防署より感染症対策から立ち合いを行なわない形での自主訓練でも良いと確認をとり実施しています。

夜間想定をでの訓練では、職員が不在の事もある為、消防署と連携を取り通報訓練も実際に行なっていただき、皆さん真剣な表情で取り組むことができていました。



避難訓練

災害対応については、今年度は、雪が多く住居周りの除雪や屋根の雪下ろしも行なっていましたが、対応が追いつかず隣家の物置に落雪し破損してしまい、謝罪等含めた対応を行なっています。

また、大雪で道路状況が悪く悪天候の際には夜勤巡回も控えてはいましたが、車体の破損が多く目立っていたように思われます。職員にも道路状況をよく見て運転業務を行うよう周知しています。

■年間行事

令和元年度	内 容
4月～令和3年3月	各 GH ごとでの誕生日会を行なっている
5月5日	ホームステイ焼肉 (各住居ごとにて対応)
6月23日	災害想定避難訓練
7月23日	焼肉大会
9月18日	樽前山登山
10月15日	赤い羽根共同募金 (コープさっぽろ)
10月19日	小外出 小樽水族館
10月20日	小旅行 富良野観光
10月21日	小旅行 白老ウポポイ観光
10月22日	赤い羽根共同募金 (コープさっぽろ)
10月26日	小旅行 砂川スイーツ巡り
10月27日	小旅行 千歳サーモンパーク
10月28日	小旅行 砂川スイーツ巡り
12月11日	夜間想定避難訓練
12月16日	夜間想定避難訓練
12月31日	住居ごと年越イベント
1月29日	成人式の写真撮影

今年度は、新型コロナウイルス感染の影響で岩見沢教育大の学生さんとの練習の場もなくなり、毎年の出場を目標としていた「ティーボール北の甲子園大会」が中止となってしまいました。また、毎年行なっていた、お盆旅行や他事業所のイベント参加、交流試合など様々な行事が中止となり、少しでも利用者さんに楽しんでいただけないかと考え、住居ごとの小旅行を計画させていただきました。感染予防も考え土日開催ではなく、平日の行事を企画しいくつかの行き先を提示し行なうことが出来ました。

今年、成人式を迎えられた利用者さんもいました。残念ながら新型コロナの影響で成人式は延期となり、着物を借りるにも感染も気になる事から事業所にて写真撮影を行なう事を決め企画実施を行なわせていただきました。



GW ステイ歩〜夢焼肉



焼肉大会

成人の記念撮影会



赤い羽根募金

教育大学生とストレッチ体操



富良野

ウポポイ

スイーツ巡り

今年度は、感染症対策で、毎年行なってきた行事を定例通り行なう事はできず、利用者の方からも沢山の外出や外食の希望もありましたが、実施するまでには至りませんでした。

普段の買い物についても、決められた時間の中で行動範囲の制限をさせて頂き、常に行動などが把握できるようにしている為、感染予防対策を行いながら少しでも余暇の充実が図れるよう行事などを考えていきたいと思ひます

■諸会議

- ・法人全体会議・・リモートを利用し月1回実施。
- ・事業所会議・・全体会議のほかに月1回実施。主に常勤の生活支援員を中心に、各利用者さんの支援上の課題や、設備、運営の仕方などの協議を行ないました。
- ・世話人会議・・月1回実施の予定でしたが、感染症対策により全員が集まる事を中止。世話人を中心に、法人全体会議や事業所会議での決定事項の周知や、個別に抱える課題の共有を行なう為、毎月資料を配布し情報の共有が行えるようにしました。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。
- ・ケース会議・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。
- ・企業就労担当会議・・現在企業就労されている方の定着支援について情報を共有して、支援の方向性について話し合いを行なっています。企業巡回が行えない為、定期的に企業に連絡をしています。
- ・給食会議・・感染症対策にて、担当者会議は中止とし資料等の確認を行いながら調整をしています。
- ・権利擁護担当者会議・・感染症対策にて担当者会議を中止しています。毎月の報告書を確認し、何かあれば連絡にて確認、参考資料等があれば随時配布を行い全員で情報の共有を行なっています。

■健康管理

今年度、定例の健康診断については感染症対策にて中止とさせて頂いています。

企業就労の方については、企業先の検診結果を把握しています。他の利用者さんについては定期的な通院の際の検査情報を把握しながら担当の医師との相談と健康状態の確認をさせて頂いています。また、岩見沢市の健康診断の予約を行い数名の方の人間ドックを実施しています。

しかし、高齢化が進み、体調不良が訴えられない方もいる中、健康診断を行わないわけにはいかない為、どのように一人一人の健康状態を把握し対応していくかが課題となる。施設での健康診断ではなく、多少のお金がかかっても委託医に協力を頂き健康診断の準備を行いたいと考えている。

感染状況によって病院の診察が止まることもある為、定期通院含め、通院の際には病院と調整を行ない診察の有無を確認しています。

今まで、薬は院内処方でしたが、病院内での滞在時間を短くするため、院外処方に変更し、個人薬局に処方箋を送り配達をお願いしています。

■支援記録

今年度は、健康診断などの結果から健康面に関する記載が増えたことや、全体日誌の記録や引継ぎが一層重要な支援情報であることを再確認しました。記載内容をエリアごとに分けたことで、確実に記録が残せ、情報共有がより確実になるように作成を行ないました。

また、昨年度に引き続き、日中活動との連携の為、連絡帳を用いて生活の様子や体調の変化などについて記載を行なっています。

家庭と調整については、感染症対策の為、帰省を中止している間は電話やメールを利用した報告をさせて頂き、帰省されている数名の利用者さんに対しては連絡帳を使用してお家庭とのやり取りを行ない、日々の体調の変化などについてお伝えをしています。

■職員研修

内部研修については、法人で作成したガイドブックを利用し世話人さんを少人数ごとに集めて研修会を行なっています。

その他は法人の研修計画に基づき研修参加を進めています。

参加した主な外部研修
全道施設長研修
権利擁護セミナー

■施設整備状況

今年度、例年になく積雪量が多く除雪対応に追われていました。定期的な屋根の雪下ろしなども行なってきましたが、除雪、排雪が間に合わず住宅の数か所にすが漏りを確認しています。また、窓ガラスも板を置き養生していましたが、落雪の勢いで破損してしまいました。

今後、後期高齢化もふまえた利用ニーズとしては、バリアフリーや高機能な設備の整った拠点機能のあるグループホームの整備を検討したいと考えていますが、古い住宅の整備も必要と考え、新たなグループホームの物件を用意していきたいと考えています。

1. 令和2年度事業の総括

岩見沢市より指定を受けて実施している日中一時支援事業楽らくは、今年度は南幌町が加わり、三笠市、栗山町の4市町村と委託契約をしています。今年度は、感染症予防の観点から、過密状態を緩和し、感染拡大リスクの低減のため、提供場所の追加を行なっています。3事業所に分かれての余暇活動の実施となりましたが、少しでも参加された方々が楽しみ、充実した余暇の時間が過ごせるよう、内容や外出先などを工夫し、感染予防に努めながら事業を実施しております。



三笠鉄道記念館への外出

2. 実施事業

□日中一時支援事業 定員20名（岩見沢市以外の定員は契約内容に基づく）

3. 令和2年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	28	26	24	27	28	27	28	25	25	25	27	24	
延利用回数	85	106	65	69	64	69	90	59	58	62	73	52	852

土曜午後の時間を活用した余暇支援を年間49回実施しました。

4. 取組みの概要

今年度は、感染症予防の観点から、今まで人気メニューとして、毎月取り入れていましたカラオケやボーリング場への外出は、感染リスクが高いと判断し、実施を断念しています。制限されることが多くなり、日々我慢している利用者さんの少しでも楽しみや気晴しともなれるような、メニューの工夫を心掛けています。感染予防に努めながら、人数を限定する、3事業所の時間が被らないよう時間の工夫や調整をしながら外出する等、様々な方法で取り組んでいます。季節に因んだ果物狩りや制作活動、三密を回避できる公園や屋外施設の利用、旬の食材やイベント事に合わせたお菓子作り等をメニューに取り入れ、利用者さんが週末の余暇を楽しみに、日頃の作業や活動へと参加出来る様、企画を毎月考え、実施しています。

5. 成果

時季に応じた限定メニューとして、いちご狩りやぶどう狩り等の外出、ハイジ牧場でのバター作り体験等を通じて、仲間と一緒に楽しむ余暇時間を提供出来たと感じています。様々な企画の提案が出来た事により、利用者さんが参加の有無を選択し、様々な取り組みに興味を持って頂き、活動や余暇の充実へと結びついた一年でした。



栗山公園でのキャッチボールの様子



ブルーベリー狩りの様子



塩キャンドル作りの様子



クリスマスリース作りの様子

6. 課題

コロナウイルス感染状況により、受け入れの人数の制限やメニューの内容にも検討が必要となり、全ての利用者さんのニーズにはお答えすることは、現状とても厳しい状況でもあります。しかし、利用者さんの安全を第一に考えながらも、内容に飽きが出ない様、普段なかなか経験の出来ない活動を少しでも提案し、季節感や気持ちのリフレッシュを楽しく通して、今後も行なえたらと思っています。充実した生活を送るためにも、余暇の充実、満足感へと繋がる工夫を模索し続けていきたいと考えております。